

第4回 個性づくりテーマ展示

《障害者福祉》

自分らしく生きる

～身体障害と向き合って～

展示期間 平成23年12月23日～平成24年2月22日

展示場所 南台図書館2階 展示コーナー



障害があるということはどういうことか、少し想像をしてみてください。

例えば、身体が自由に動かせない、耳が聞こえない、物が見えないということ。

「不便だな」、「悲しい」と思うかもしれません。でも、それだけでしょうか。

世の中には、様々な人がいて色々な考えがあり、色々な体験をした人がいます。

今回の展示では、自分の“障害”と向き合い、自分らしく生きている人達にスポットを当ててみました。

展示資料は貸し出しもできます。



中野区立南台図書館

03-3380-2661

日本の障害者福祉

かつて日本の障害者福祉政策は、行政がサービスの内容や施設の選定・提供する『措置制度』と呼ばれるもので、福祉サービスを利用する側の要望が反映されにくい事がありました。

2003年、利用者本人の意思に基づいて、サービス提供者と対等な立場で契約を結び、その費用を行政が支援する『支援費制度』が実施されることになりました。しかし、障害の種別によって異なるサービス体系のわかりにくさ、地域ごとのサービス内容の差異や、利用者急増による財源不足など問題も多くありました。それらの問題点を解消するため2006年に生まれたのが『**障害者自立支援法**』です。これにより、サービス提供主体が区市町村に一元化され、費用の1割を負担することで障害の種別にかかわらず福祉サービスが受けられるようになりました。

また、働く意欲のある人に対する就労支援も強化されました。障害者の就労に関しては「**一般就労**」と「**福祉的就労**」があり、このうち「福祉的就労」が中心となっていました。福祉的就労とは障害者が福祉施設で支援を受けながら働くことです。施設には福祉関係の法律に基づく授産施設と福祉工場、法律には基づかない作業所がありますが、このいずれの施設でも得られる賃金は驚くほど低く、自立した生活を送れるだけの収入を得ることは不可能でした。しかし自立支援法の施行によりこれらの施設は再編され、福祉的就労から一般就労へ大幅に移行する計画が進んでいます。日本の福祉政策は時代とともに、主に障害者を保護する政策から、障害者が自立し、自分らしく生きるためにサポートをする政策へと変化していったのです。

バリアフリーな社会を目指して

近年「バリアフリー」という考え方が広まっています。「バリアフリー」とは、もともと建築用語で「バリア(障壁)」を「フリー(自由にする)」、つまり建物内の段差など物理的な障壁を取り除く、という意味で使われていました。しかし現在では物理的なバリアはもちろんのこと、人々が暮らしの中で直面する様々なバリアを解消し、生活しやすくするという広い意味で使われるようになりました。

私たちの生活は日々便利で豊かになっていますが、そういった便利さや快適さのなかにも「バリア」は存在します。普段何気なく昇り降りしている**階段や段差(=物理的なバリア)**は、車椅子を利用している人にとっては大きなバリアです。電車やバスで**事故があった時に流れる車内放送(=情報のバリア)**は、聴覚が不自由な人には伝わりません。悲しいことですが、**身体や心に障害があるという理由で職業選択の自由を奪われてしまうこと(=制度のバリア)**もあります。そして「**障害がある人はかわいそうだ**」「**守ってあげなくてはいけない**」という一方的な思い込み(=心のバリア)も、平等な人間関係を築く妨げとなるバリアといえます。

「バリア」「バリアフリー」と言っても自分には関係ないことだと思ってしまうかもしれません。しかし、人は誰でも年を取ります。そして、いつ病気や怪我をするかわかりません。「バリア」のない社会は、障害者だけでなく全ての人にとって、住みやすい社会ともいえるでしょう。超高齢社会を迎えた日本にとって、バリアフリーな社会をつくることは大きな課題となっているのです。

《参考資料》

『障害者自立支援法がよ〜くわかる本』（東中野図書館）
福祉行政法令研究会著 秀和システム 2011年

『ユニバーサルデザイン 全3巻』
東京大学先端科学技術研究センターバリアフリープロジェクト監修 あかね書房 2006年

『「バリアフリー」って、なんだろう？ ①, ⑤』
共用品推進機構監修 学研 2000年



パラリンピックを知っていますか？

パラリンピック(Paralympic Games)とは、平行+オリンピックの造語で、「もう一つのオリンピック」と解釈されます。国際パラリンピック委員会(IPC)が主催する身体障害者を対象とした世界最高峰のスポーツ競技大会です。オリンピックと同じ年に同じ場所で開催され、2004年のアテネ大会から夏季オリンピックと共同の開催組織委員会が運営しています。

オリンピックとの違いは、障害の度合いに応じた階級があることです。障害種は「運動機能障害」「脳性まひ」「切断など」「視覚障害」があり、競技ごとの記号と度合いを数字で表します。現在は聴覚障害者・知的障害者・精神障害者はパラリンピックに出場することができません。

パラリンピックのシンボルカラーは赤・緑・青で、それぞれ赤色は心、緑は身体、青色は精神を表します。

歴史

イギリスにあるストーク・マンデビル病院では、第二次世界大戦で脊髄を損傷した軍人のリハビリの一環として車椅子の入院患者によるアーチェリー競技会が行われていました。当初は入院患者のみの競技大会でしたが、1952年には国際大会になり、1960年オリンピックが行われたローマで国際ストーク・マンデビル競技大会が開催されました。この大会は現在、第1回パラリンピックと呼ばれています。

国際オリンピック委員会は1985年、これまでの愛称であった「パラリンピック」を正式名と認め、1992年からは冬季大会も開催されるようになりました。2000年からは、オリンピック開催都市でのパラリンピック開催が正式に義務となりました。

競技種目

夏季

自転車競技・水泳・柔道・射撃・馬術・視覚障害者5人制サッカー・パワーリフティング
車椅子マラソン・車椅子バスケットボール・車椅子テニス・車椅子フェンシング
シットイングバレーボール・脳性まひ者7人制サッカー・アーチェリー等

冬季

アルペンスキー・クロスカントリー・アイスレジャホッケー・バイアスロン
車椅子カーリング

日本では、日本オリンピック委員会(JOC)が文部科学省管轄のスポーツ機関であるのに対して、IPCは厚生労働省の管轄であることから、リハビリの延長線上にある医療・福祉の一環として見られていた経緯があります。しかし、回を重ねるごとに「競技性」が高まり、スポーツとしてのレベルアップが進んでいます。選手や関係者を中心に、競技スポーツとしての強化が図られている現状から、福祉だけでなく「スポーツ文化」としての理解と支援が求められています。

《参考資料》

『未来を支える福祉の現場 ④』
高橋利一監修 岩崎書店 2007年

《参考HP》

日本障害者スポーツ協会 <http://www.jsad.or.jp/index.htm>



展示資料の紹介



余命1年からの奇跡

野沢英二著 かんき出版 2010年 916

人はどこまで強くなれるのだろうか。そんなことを考えさせてくれる1冊です。自分には“絶対ムリ！”という思いと、でも目標や希望がなくては生きていけないかも、という思いが交差します。明日何があっても、人はきっと乗り越えていけるという強いメッセージを感じて、一人ひとりが毎日を大切に生きていこうと思ってもらえたら良いですね。

全盲先生、泣いて笑っていっぱい生きる

新井淑則著 マガジンハウス 2009年 289.1



生まれた時から障害と向き合う方々もいれば、不意の事故や病気から今までと違う生活を過ごす方々もいます。教師である著者も“網膜剥離”という病気になり、全盲に至った方です。障害者としての自身を受け入れるまでの苦節は、当事者たちが乗り越えるしかありません。だからこそ、どんな風に日々を感じ、その現実を受入れたかは、当事者にしか書けません。その他にも著者の日常、パートナーたる盲導犬、全盲になってからの世界旅行の体験談もあり、なかなか知ることの難しいお話が随所に織り込まれています。



障害者福祉展示リスト

知ってみよう

- * 障害者の権利条約でこう変わるQ&A 369. 2 シ
東俊裕監修 解放出版社 2007年
- * 「障害者」と街で出会ったら 369. 2 モ
もりすぐる著 緑風出版 1996年
- * 特別支援教育に役立つ実践事例集 378 コ
是枝喜代治編著 学研 2008年

点字・手話に触れてみよう

- * はじめての点字点訳入門 378. 1 ハ
塩谷治監修 広済堂出版 1999年
- * 万人のための点字力入門 378. 1 ヒ
広瀬浩二郎編著 生活書院 2010年
- * 世界の手話 入門編 378. 2 イ
伊藤政雄共著 広済堂出版 1988年
- * きちんと伝わるはじめての手話 378. 2 キ
米内山明宏監修 ナツメ社 2008年

彼らの感じていること

- * 五体不満足 289. 1 オ
乙武洋匡著 講談社 1998年
- * 沈黙の美女 289. 3 コ
ブレンダ・コスタ著 阪急コミュニケーションズ 2010年
- * 46年目の光 289. 3 メ
ロバート・カーソン著 NTT出版 2009年
- * 小指のおかあさん 378. 2 タ
玉田さとみ著 ポプラ社 2011年
- * パラリンピック物語 780. 6 ヒ
土方正志文 リトル・モア 1998年
- * 今日の風、なに色? 762. 1 ツ
辻井いつ子著 アスコム 2000年
- * 盲留学生 916 キ
金治憲著 毎日新聞社 2008年



盲導犬と共に

- * 晴れた日には希望が見える 289. 3 ブ
デイヴィッド・ブランケット著 朝日新聞社 1998年
- * 盲導犬誕生 369. 2 ヒ
平野隆彰著 ミネルヴァ書房 1997年
- * Q&A盲導犬 369. 2 マ
松井進著 明石書店 2007年
- * 二人五脚 916 マ
松井進著 実業之日本社 2001年
- * 盲導犬イザベルが教えてくれたこと 916 ヨ
米田明三著 北国新聞社 2011年
- * サンダードッグ 936 ヒ
マイケルヒングソン共著 燦葉出版社 2011年

リストに載っていない資料もありますので、棚をご覧ください。



身体障害について調べてみよう

身体障害について、より知識を深めたい方もいらっしゃるかと思います。
ここでは、身体障害についての資料・情報の調べ方を紹介します。

1. 情報検索のキーワード

身体障害について調べる際に幾つかのキーワードがあります。
これらを使うことで、より効率的な調べ方ができます。

身体障害、聴覚障害、難聴、ろう者、視覚障害、弱視、全盲、言語障害、失語症、吃音、
脳性まひ、肢体不自由、内部障害、点字、手話、盲導犬、聴導犬、バリアフリー、アクセシビリティ、
ユニバーサルデザイン、パラリンピック、デフリンピック、身体障害者福祉法、障害者自立支援法、
バリアフリー法、身体障害者手帳

2. 基本的な情報を調べる

(ア)用語を調べる

資料情報	請求記号	所蔵館
世界大百科事典 平凡社 2009年	031 セ 34	南台図書館
現代用語の基礎知識 2010 自由国民社 2010年	031 ゲ 10	南台図書館
障害者自立支援用語辞典 障害者福祉研究会編 中央法規出版 2008年	R369.2 シ	中央図書館参考資料室

(イ) テーマの棚を調べる

分野	分類記号	分野	分類記号	分野	分類記号
身体障害者福祉	369.27	点字	378.18	手話	378.28

(ウ) 身体障害に関する図書を調べる

中野区立図書館ホームページの蔵書検索を使って調べる

→<http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/index6.html>

資料情報	請求記号	所蔵館
障害者自立支援法がよ〜くわかる本 福祉行政法令研究会著 秀和システム 2010年	369.2 シ	南台図書館
障害者旅行ハンドブック もっと優しい旅への勉強会編 学苑社 1995年	369.2 シ	南台図書館
わたしたちの手話学習辞典 大杉豊編 全日本ろうあ連盟出版局 2010年	378.2 ワ	南台図書館

(中野区未所蔵の場合) 東京都内公立図書館で所蔵されている図書を探す

→ <http://ufinity01.jp.fujitsu.com/metro/>

(エ) 雑誌・新聞を探す

雑誌を探す→「ノーマライゼーション」(日本障害者リハビリテーション協会) (中央図書館)

「クローバー」(ジェイ・ブロード) (中央図書館)

原紙(朝日・毎日・読売・産経・東京・日経)→南台図書館1階新聞コーナーにあります。

毎日新聞縮刷版→南台図書館2階大型本コーナーにあります。

3. 関連機関のご案内

* 中野区役所:障害者相談支援担当 TEL:03-3228-8956

* 障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」 (スマイルなかの 5F)
身体・知的障害者相談窓口 TEL:03-3389-2375

* 地域生活支援センター「せせらぎ」 (スマイルなかの 6F)
精神障害者相談窓口 TEL:03-3387-0993

スマイルなかの 〒164-0001 東京都中野区中野5-68-7

* 東京都心身障害者福祉センター
〒162-0052 東京都新宿区戸山3-17-2 TEL:03-3203-6141

* 東京都福祉保健局 <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/index.html>
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1 TEL:03-5320-4032

* 厚生労働省
〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎第5号館
TEL:03-5253-1111
障害者福祉

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaihashukushi/

* 東京都障害者サービス情報 <http://www.shougai-fukushi.metro.tokyo.jp/>

南台図書館からのお知らせ

年末年始のお休み

■の日は休館日

2011年12月			2012年1月						
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4	5	6	7
			8	9	10	11	12	13	14
			15	16	17	18	19	20	21
			22	23	24	25	26	27	28
			29	30	31				

開館時間:(土)、(日)、祝日、平日共に午前9:00～午後7:30

2012年1月4日(水)は開館しています!



2012年1月27日(金)は館内整理日のため
休館です。



2012年も皆様のご利用を
お待ちしております。

